

育苗センターで浸種作業が本格化

能代営農センター

担当職員が手際よく種もみの入った種子袋（5kg入り）を水槽に漬け消毒し発芽を促す浸種作業が3月23日から始まりました。

事前に注文受付した水稻苗を、およそ1万7千枚分約2400tを発芽させ、生産者へ配布する育苗作業は今月末まで続き、あきた白神米生産者の作業場でも同様な作業が始まり、管内がいよいよ農繁期に突入り活気を帯びてきました。

作業にあたる能代営農センター秋元さんは「水槽内の水温を一定以上に保つことに気を使いながら、水管理にも注意を払い生産者に健苗を手渡したい。」と話してくれました。



水温を確認し、次々と水槽に漬け込む職員



次々と運び込まれた廃プラスチックを荷下ろす職員

春作業目前に廃プラ処分

営農部

春の農繁期に突入する管内3地区の営農センターで一斉に農業用使用済廃プラスチック収集を行うと、肥料袋や古くなった水稻の苗箱、今春張替え不用となったビニールハウス資材など約4.4トンが集められました。

「これまで保管していた廃プラスチックが処分されて、作業場もきれいに片付いた。これからの春作業を気持ちよく頑張りたい。」と処分に訪れた農家組合員はすっきりした表情で話してくれました。

野焼きや不法投棄などの違法行為を未然に防ぐことを目的に今年度も年3回開催することとしており、次回の収集は6月に予定しています。

能代厚生医療センター相談コーナー・新ATM設置

金融課

能代厚生医療センター出張所が、皆さまのご理解とご協力をもって3月27日の営業を最後に閉店しました。

同出張所ではこれまでの感謝を込めて来店者に粗品をプレゼントする閉店感謝キャンペーンを開催し、出張所長のほか2名の職員は来店者にこれまでの感謝を述べながら粗品をプレゼントしました。

3月30日には既存のATM移設工事が終了し稼働を再開。それとともに既存ATMが設置されていた場所にはJA相談コーナーが4月6日に新設され稼働しました。これからも是非ご愛顧お願いいたします。



閉店感謝キャンペーンで粗品をプレゼント



苗の状態を皆で確認するねぎ部会員

「白神ねぎ」18億円販売の道は育苗から

「白神ねぎ」20億円販売達成プロジェクト
営農企画課

ねぎ部会（大塚和浩部会長）は4月1日から、地区ごとにねぎ育苗ハウス巡回を実施しました。

築法師地区では生産者のほか県山本農業振興普及課職員など18名が参加し、各生産者の育苗状況を確認しながら生産者どうし今後の栽培管理について確認し合う個々の生産スキルの高さが垣間見られました。

営農企画課の佐藤課長補佐は「昼夜の温暖差でハウス内に湿気がこもるので、毎朝こまめに換気を行うこと。ハウスに入った瞬間、眼鏡をしている人はそれが曇れば湿気がある証拠なので目安にしてみてください。」等と、「ためしてガッテン」なアドバイスをしていました。